

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 1 区分
【発行日】令和 7 年 6 月 19 日(2025.6.19)

【公開番号】特開 2024-36858(P2024-36858A)
【公開日】令和 6 年 3 月 18 日(2024.3.18)
【年通号数】公開公報(特許)2024-050
【出願番号】特願 2022-141378(P2022-141378)
【国際特許分類】

H 0 1 R 13/187(2006.01)

10

H 0 1 R 13/04(2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/187 A

H 0 1 R 13/04 B

【手続補正書】

【提出日】令和 7 年 6 月 11 日(2025.6.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0087

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0087】

< 接点形成金具 86 >

実施形態 1 では、各第 1 傾斜側縁部 36 に固定される各接点形成金具 28 が別個に設けられていたが、実施形態 2 の接点形成金具 86 は、実施形態 1 の各接点形成金具 28 が左右方向で連結されたような構造を有している。すなわち、実施形態 2 の接点形成金具 86 は、雄端子圧入隙間 16 への雄端子 12 の圧入方向（前後方向）に延びる帯形状とされた部分を有しており、長手方向（前後方向）の中央部分から長手方向の両端に向かってそれぞれ片持ち梁状に突出する前方突出舌片 92 と後方突出舌片 94 とを有している。各前方突出舌片 92 と各後方突出舌片 94 とはそれぞれ前後方向の中央部分における接続部 96 において接続されており、左右方向の両側に設けられた一对の接続部 96、96 が、左右方向中央における連結部 98 によって連結されている。なお、接点形成金具 86 が第 1 接触部 18 に固定された状態では、連結部 98 が第 1 平坦部 38 に沿って左右方向に延びているとともに、各接続部 96 が各第 1 傾斜側縁部 36 に沿って左右方向外方になるにつれて上方に傾斜する方向に延びている。それゆえ、接点形成金具 86 が第 1 接触部 18 に固定された状態では、連結部 98 に対して各接続部 96 が上方へ曲げられた状態となっている。

30

40

50